

## 泉区の古道

泉区には、新田義貞が鎌倉攻めに通ったとも言われる「鎌倉道」や、大山信仰の道として賑わった「大山道」のような主要な古道が交差しています。

### 暮らしと治世の道 「鎌倉道」「岡津道」

鎌倉へ通じる「鎌倉道」はたくさんありますが、中でも重要な「鎌倉道（藤沢八王子道）」[1・3コース]（P 3、7）が区内の上飯田・下飯田を通っています。また、和泉町との境を南北に真っ直ぐ走る「たつ道」と呼ばれる道も、戦時に使われた「鎌倉道」と考えられています。一方、立場を南北に通る道も、支線として使用されたと考えられますが、現在この道に付けられている呼称「かまくらみち」は、市民の応募により付けられた愛称です。「岡津道」[7コース]（P 15）は、小田原北条時代には、小田原に通じた道でもあります。

### 暮らしと順礼の道 「ほしのや道」「大石堂道」「いずみ観音道」

札所めぐりとして賑わった道は、「ほしのや道」[2・6コース]（P 4、12）の他、旧鎌倉郡観音三十三札所を巡る道もあります。「大石堂道」[2コース]（P 4）は、阿久和の二十三番札所観音寺から上飯田の柳明神社の地にあった二十四番札所大石寺に通じる道で、松陽高校前のほしのや道との分岐点に道標が立っています。また、「いずみ観音道」[5コース]（P 11）は、和泉の二十五番札所正法寺から中田の二十六番札所中田寺稲葉堂に続く道で、和泉町4491番地付近には「いづみむらくわんおん道」と刻まれた道標があります。

### 暮らしと信仰の道 「大山道」

大山参りの道として、江戸時代に最も利用された道は、柏尾の不動坂を起点として岡津・和泉を通る「柏尾通り大山道」[5・7コース]（P 11・15）です。また、戸塚の清源院横から矢沢・踊場・中田を経て、和泉で合流する道も「戸塚道」[9コース]（P 19）と呼ばれる「大山道」の一つで、現在は長後街道としてその面影を残し、人々の暮らしの道としても重要な働きをしてきました。

この他に、中田から白百合・矢部を経て吉田町に通じる「谷矢部道」や白百合から上矢部を経て不動坂に通じる「柏尾道」、さらには、和泉から萩丸・葛野・踊場を経て戸塚へ抜ける道も「大山道」[9コース]（P 19）です。

### 暮らしと流通の道 「神奈川道」

#### 「二俣川道」「武相国境の道」「郷境道」

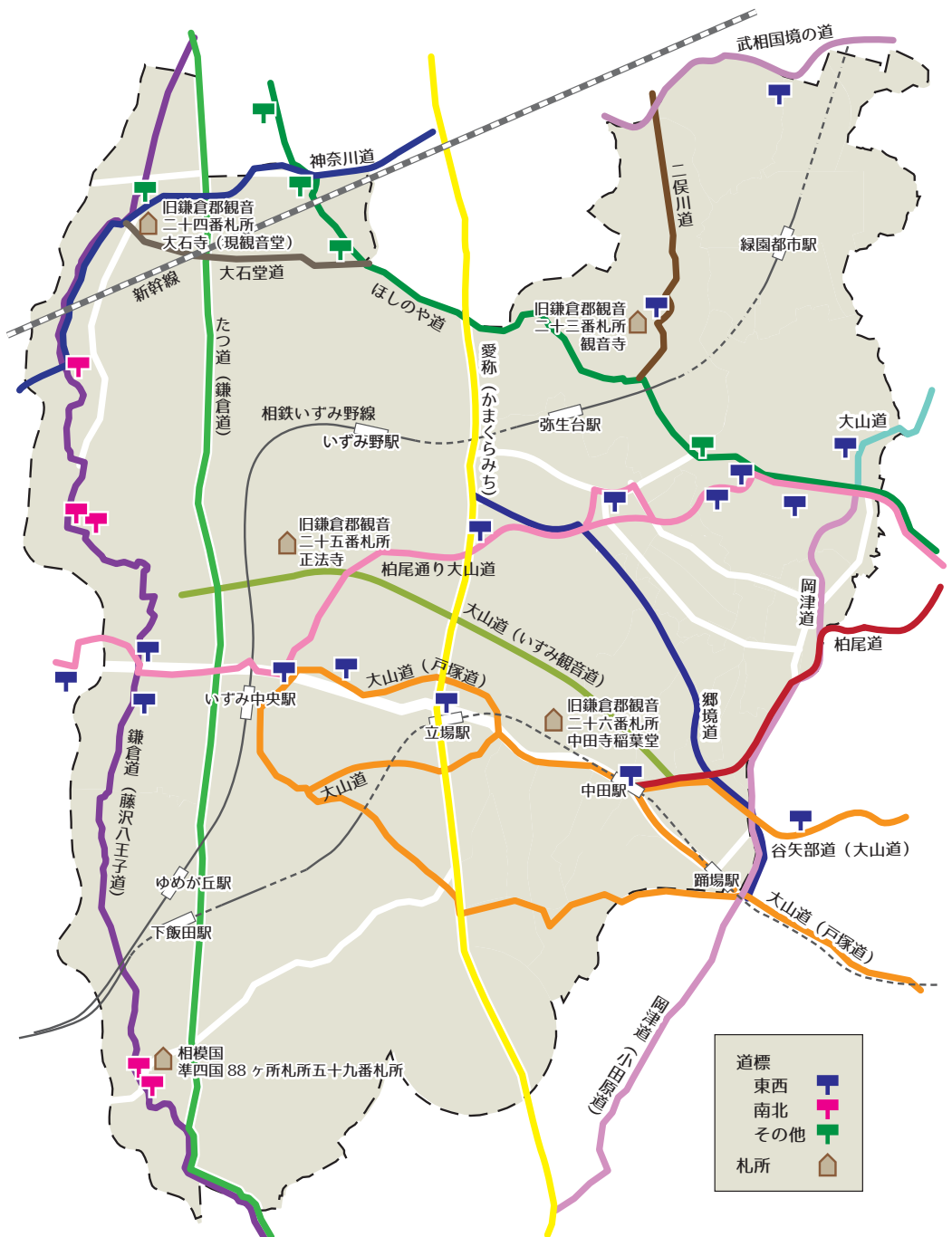
その他、区内には生活に欠かせない道もたくさんありました。

「神奈川道」[1・2コース]（P 3、4）は、大和市の下和田から境川を渡り、旧いちょう小学校前で「鎌倉道（藤沢八王子道）」と合流します。さらに北上して柳明神社裏を通り、瀬谷区との境をたどり、二俣川・保土ヶ谷へと通じます。中屋敷・柳明・上和泉には道標があります。江戸時代、飯田・和泉の各村の年貢は、この道を通して保土ヶ谷の新町川岸まで運び、そこから船で江戸の蔵前に運んだと、宝永4年（1707）の文書に記されています。

「二俣川道」[6コース]（P 12）は、新橋から観音寺前を通り、神明台方面から二俣川に抜ける道です。

「武相国境道」[6コース]（P 12）は、泉区の北端に位置し、相模と武蔵の国境の道です。

「郷境道」は、戦国時代の分国支配の頃の重要な郷境であったと思われる道で、今でもこの道が町境になっています。



## 泉区の歴史（年表）

- ◆明治 元年（1868） 8月 区内の村々の領主が領地を返納。  
12月28日 神奈川県管轄となる。
- ◆明治 5年（1872） 4月 村の名主を廃し、戸長・副戸長を置く。
- ◆明治 6年（1873） 5月 区画整理が行われ、鎌倉郡北部33ヵ村を第17区に編成。区の会所を中田の中田寺に置く。第17区6・7・8番組が現在の泉区に該当。
- ◆明治 7年（1874） 6月 区・番組の称号を廃し、区を大区、番組を小区と改める。
- ◆明治11年（1878） 7月 群区町村編成法の執行により、大区・小区制を廃し、郡に郡役所、村に戸長役場を設置。
- ◆明治17年（1884） 7月 各村の戸長を廃し、連合戸長役場を和泉村の長福寺、岡津村の向導寺に設置。
- ◆明治22年（1889） 4月 市制・町村制の実施により上飯田・下飯田・和泉・中田は合併し鎌倉郡中和田村に、岡津・阿久和・上矢部・秋葉・名瀬は合併し鎌倉郡中川村になる。持田角左衛門が製糸場を設立。これ以降、各所に製糸場が設立。
- ◆明治42年（1909） 横浜港開港50周年にあたり、横浜市歌・徽章を制定。
- ◆大正 3年（1914） 5月 戸塚・長後間の新道が開通（明治35年着工）。成宮鶴吉が乗合馬車の営業を開始。
- ◆大正 9年（1920） 5月 戸塚・長後間の新道を県道に認定。鶴屋自動車会社が乗合バスの営業を開始。
- ◆大正12年（1923） 9月 関東大震災で中和田村では730戸中328戸が、中川村では623戸中138戸が全壊するなど多大な被害を受ける。
- ◆大正15年（1926） 6月 戸塚の不動坂から阿久和の観音寺下まで県道が開通（大正10年着工、昭和6年には店村まで全通）。
- ◆昭和 3年（1928） 戸塚・阿久和間に相沢自動車店が乗合バスを運行開始。
- ◆昭和 7年（1932） 旅客機が東京・大阪間の夜間飛行を開始。航空灯台を和泉町横根稲荷の通称「富士やま（富士塚）」に設置。（昭和19年撤去）
- ◆昭和14年（1939） 4月 横浜市は第6次市域拡張を実施。鎌倉郡のうち、1町7村（戸塚・瀬谷・中川・中和田・川上・大正・豊田・本郷）が編入され、戸塚区となる。  
5月 戸塚区役所開庁。このとき、下阿久和が分離して新橋町となる。
- ◆昭和22年（1947） 旧中和田村役場庁舎に戸塚区役所中和田地区事務所を設置。
- ◆昭和26年（1951） 3月 中和田地区事務所を廃止。戸塚区役所中和田出張所を開設。
- ◆昭和27年（1952） 5月 戸塚消防署中和田分遣所を設置（現泉消防署）。  
12月 中川地区事務所を廃止。戸塚区役所中川吏員派出所を開設。
- ◆昭和44年（1969） 10月 戸塚区から瀬谷区が分区。
- ◆昭和50年（1975） 4月 中和田出張所を和泉町字神田に移転。
- ◆昭和51年（1976） 4月 相模鉄道いずみ野線「二俣川駅」～「いずみ野駅」間が開通。
- ◆昭和52年（1977） 7月 中和田出張所を廃止し、中和田支所を開設。
- ◆昭和59年（1984） 12月 「横浜戸塚区の再編成に関する条例」を市会で議決。
- ◆昭和60年（1985） 12月 新区名「泉区」を選定。
- ◆昭和61年（1986） 11月3日 泉区発足。
- ◆昭和62年（1987） 3月 区のシンボルマーク制定。
- ◆昭和63年（1988） 4月 泉消防署開署。
- ◆平成 元年（1989） 2月 泉図書館開館。
- ◆平成 2年（1990） 4月 相模鉄道いずみ野線延伸（「いずみ野駅」～「いずみ中央駅」）。
- ◆平成 3年（1991） 5月 泉公会堂開館。
- ◆平成 4年（1992） 4月 区の花「あやめ」制定。泉警察署開署。  
9月 泉スポーツセンター開館。
- ◆平成 5年（1993） 9月 泉区民文化センター「テアトルフォンテ」開館。
- ◆平成 8年（1996） 11月 泉区発足10周年。泉区総合庁舎完成。
- ◆平成11年（1999） 3月 相模鉄道いずみ野線延伸（「いずみ中央駅」～「湘南台駅」）。  
8月 横浜市営地下鉄延伸（「戸塚駅」～「湘南台駅」）。
- ◆平成14年（2002） 7月 泉区の人口が15万人を超える。
- ◆平成19年（2007） 2月 区マスコットキャラクター「いっずん」デビュー。  
11月 区の木「サクラ」、「キンモクセイ」、「ハナミズキ」、「アジサイ」、「コムラサキ」及び「モミジ」を制定。
- ◆平成23年（2011） 3月 横浜伊勢原線全線開通。
- ◆平成26年（2014） 6月 旧深谷通信所跡地返還。
- ◆平成28年（2016） 11月 泉区発足30周年。



泉区のシンボルマーク



## 泉区周辺で見られる魚と鳥

水と緑に囲まれた泉区は、横浜市の中でも数多くの魚や鳥が見られます。区内を流れる境川、和泉川、阿久和川、村岡川（宇田川）などには、多くの魚が生息しています。一度は姿を消したアユなどの魚も、下水道が整備され、普及したことによりきれいになった川に戻ってきました。

また、泉区には田んぼや遊水地、川、斜面林など多様な環境があり、カワセミやサギ類、カモ類などの水辺の鳥、キジなどの草原性の鳥、ルリビタキなどの森林性の鳥など、多種類の鳥が生息しています。



アブラハヤ



アユ



オイカワ



ギンブナ



コイ



ドジョウ



アオサギ



イソシギ



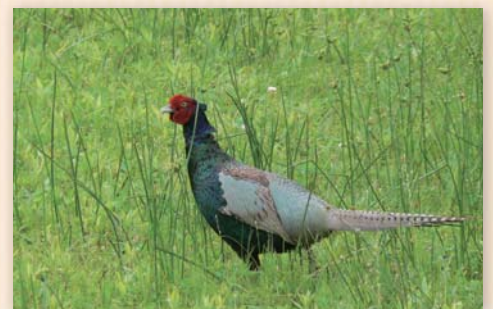
カルガモ



カワセミ



カワラヒワ



キジ



キセキレイ



シジュウカラ



ジョウビタキ



チュウサギ



ハクセキレイ



マガモ



メジロ



モズ



ルリビタキ

(写真提供：横浜市環境創造局政策課、横浜市環境科学研究所、公益財団法人神奈川県公園協会)

## あとがき

泉区では区内の魅力を紹介するため、平成16年3月に泉区散策ガイド「水と緑と歴史の散歩道」を発行しました。発行にあたっては区内の歴史・ウォーキング・子育てに関するグループの代表者、小学校教諭、一般公募による区民を中心とした泉区散策ガイド編集委員会・検討委員会による編集協力がありました。

それから12年余り経過し泉区が区制30周年を迎えるにあたり、本ガイドの改訂版を発行することになりました。改訂版の編集・執筆等にあたっては、泉区歴史の会の協力を得ながら、実地を再確認し、各ポイントや紹介文の加除修正を行いました。

今回の発行にあたり、散策モデルコースを全12コースから全10コースに見直すとともに、地図や文字を見やすくするため、冊子の形態をB5三折りからA4版とし、泉区外の人に親しみやすいデザインに刷新しました。

最後になりますが、改訂版発行にあたり、改訂版発行を快諾していただいた泉区散策ガイド編集委員会・検討委員会委員長の宮本忠直氏をはじめ、今回も編集作業にご協力いただきました石井茂会長をはじめ「泉区歴史の会」の皆様、情報や写真をご提供いただいた関係者各位、本ガイドの発行にご尽力いただいた皆様に厚くお礼を申し上げます。

泉区役所





## 泉区散策ガイド 水と緑と歴史の散歩道

制作：横浜市泉区役所総務部地域振興課  
〒245-0016 横浜市泉区和泉町4636-2  
電話 045-800-2395 Fax 045-800-2507  
Eメール：iz-chishin@city.yokohama.jp  
ウェブサイト：<http://www.city.yokohama.lg.jp/izumi/03shinkou/>

編集協力：泉区歴史の会

発行：平成16年3月

改訂：平成28年11月